

## 3-6. 社団法人四万温泉協会（群馬県吾妻郡中之条町四万温泉地区）

### (1) アドバイザー派遣申請の背景

現在、四万温泉協会では、地域づくり委員会を組織し、地域住民が主体となって四万温泉地区を活性化させる活動を行っており、委員会内で「街」グループと「自然」グループに分かれて活性化のための活動を行っている。「街」グループでは、温泉街の空店舗対策として貸店舗活動や街中のコミュニティーでの歴史・文化・自然の展示等を行っている。「自然」グループでは、四万温泉地区内にポケットパークを整備して、自然を楽しみながら休息できる場づくりや周辺散策路等の整備・維持管理を行っている。

今回のアドバイザーの助言や指導を元に、「こしきの頭開拓ツアー（仮）」の詳細計画を作成し、平成 25 年 7 月 31 日までにツアー（モデルツアーも含む）を実施し、登山道の有効活用を進めたい。

当協会の地域づくり委員会のメンバーが直接アドバイザーから助言・指導を受けることにより、地域住民が作る上質なエコツアーの企画ができ、当地域の観光振興・地域振興に寄与することができる。また、委員会の構成員は主に地域住民によって組織されていることから、エコツーリズムの理念の普及啓発にも寄与できる。

### (2) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成 24 年 12 月 12 日（水）～13 日（木）
場 所	群馬県吾妻郡中之条町四万 水晶山、奥四万湖、温泉街 等
ア ド バ イ ザ ー	株式会社日本旅行 トムソーヤクラブ 小山重幸氏
参 加 者	四万温泉協会、地域づくり委員会、中之条町観光商工課、林野庁吾妻森林管理署、環境省万座自然保護官事務所、中之条観光ガイドボランティアセンター、グリーンディスカバリー
スケジュール・方法	<p><b>【1 日目】</b> 水晶山登山道視察、日向見薬師堂、奥四万湖、甌穴、足湯・飲泉所・公共浴場や温泉街の視察、懇親会</p> <p><b>【2 日目】</b> 国立公園について説明、講義（四万温泉の自然と歴史、文化、温泉を組み合わせたエコツアーとして商品を作る上でのポイントについて）、意見交換会（登山道・遊歩道等の活用方法と今後の展開について）</p>



（中之条町観光協会 HP より）



（中之条町観光協会 HP より）

### (3) アドバイスの内容

---

#### ●現地視察会、懇親会

- ・ 四万温泉協会に集合し、参加者の自己紹介後に、水晶山登山道の入口の看板にて、以前登った時の写真をまじえてのコースの説明。実際に水晶もあるので、「子どもを対象に水晶採掘ツアー」等を考案してみてもとの、アドバイスを受ける。
- ・ 奥四万湖視察では、こしきの湯内にある、奥四万湖周辺の模型を使って、木の根宿、こしきの頭等の位置関係を説明、その後、実際に登山道に入口や湖を周遊視察。
- ・ 花魁屋敷、石楠花（花言葉：荘厳）の滝、摩耶の滝等のネーミングが良いので、名前をうまく使っていきべきである。また、日向見薬師堂、甌穴、足湯・飲泉所・公共浴場や温泉街の視察では、各観光名所を点ではなく、それらに線としての物語、ストーリー性を考案する。日帰りでは回りきれないような魅力あるコースづくりをとのアドバイスを受ける。普段私達は、全然何とも思っていなかった各観光名所を、再認識させてくれた。
- ・ 懇親会では、地域と行政、関係団体との連携がこんなに取れている地域が珍しいとの感想、また、若い人たちが地域を良くしていきたいとの意気込みを感じる、ぜひ、今後も続けていって欲しいとの言葉に、今後もアドバイスをいただきたいとの声が多数あった。

#### ●講義、意見交換会

##### (国立公園についての説明／黒江氏)

- ・ 国立公園についての説明が自然保護官よりあった。四万温泉は上信越高原国立公園（日本では 2 番目の広さ）内にある。昭和 24 年 9 月に国立公園の指定を受け、現在は、第 2 種特別地域になる。
- ・ 小山氏の講義（四万温泉の自然と歴史、文化、温泉を組み合わせたエコツアーとして商品を作る上でのポイントについて）

##### (小山氏が手がけているトムソーヤクラブについての話の内容)

- ・ 群馬県南牧村、静岡県土肥温泉等の事例について話を伺った。
- ・ 1人当たりの国内宿泊旅行回数は 1.56 回／年間、宿泊数は 2.39 泊／年間
- ・ 国内旅行に行こうと思った目的は「自然景観を見る・触れる」が 62%で 1 位。
- ・ 中高年（特に 55～64 才位）の旅行市場も共通指向であるが、適当なツアーがないとの意見が多い。ただ、1日 4 時間、10 キロメートル程度が抵抗なく受け入れられるツアーコース。
- ・ 自然観賞の旅、癒しの旅、歴史文化遺跡等を訪ね学ぶ旅を求め中、地域の特色、人々とのふれあい、食の楽しみ等の接したいと望んでいる。
- ・ 浜辺や高原等自然に囲まれてのんびり過ごす旅行、エコツアーは、長期旅行の傾向が観察されてきている。
- ・ エコツアーはまだあまり旅行商品化されていないので、メディアへの認知を高めるのと旅行会社の積極的な対応と商品化が望まれる。
- ・ 情報普及にインターネットを活用する。
- ・ 以上の話を拝聴しまして、関係者の多くは、上信越高原国立公園内四万温泉の特色を活用した、例えば長期湯治と自然体験等の商品化が必要であり早急に検討に検討したいとのことである。

## (4) アドバイザー派遣の効果

---

### ●参加者や関係者に与えた効果

- ・ 小山氏の講演、意見交換、現地視察での意見聴取等を受け、参加者、関係者、事務局が改めてエコツーリズムの必要性を強く感じた。

### ●今後の期待される効果

- ・ 四万温泉に今ある観光資源をいかして、関連団体にも協力をしてもらいながら、ツアーを検討していくことにより、相乗効果が期待できる。
- ・ 可能であれば今後3ヵ年地域資源活用推進事業として取り組みたい。

## (5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

---

### ●参考となった事項

- ・ 小山氏の講演での群馬県南牧村の事例は、同じ県内であるので、参考となったので、今後現地視察調査をしたい。

### ●その他感想

- ・ 自然豊かな谷間と清流を取り巻く観光資源のアドバイスをいただきまして、早急に組み合わせたエコ商品づくり等を必要と感じた。

## (6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

---

株式会社日本旅行／トムソーヤクラブ 小山 重幸 氏

### ●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

～ひとには教えたくない温泉があります～

- ・ 四万温泉は山間を縫って流れる四万川の流れて沿った温泉街である。およそ 40 軒の温泉旅館、50 軒の食事店・商店が南端の「温泉口・おんせんぐち」地区から、北端の「日向見・ひなたみ」地区まで川沿い 6 キロメートルに点在する。
- ・ それぞれの地区は四万川の下流・南側から「温泉口」「山口」「新湯」「ゆずりは」「日向見」の 5 地区。日向見地区から更に上流へたどると奥四万湖に至る。この縦に長いエリアを、お客様に気軽に散策していただく、魅力的な素材を整えていこう、という思いから、四万温泉協会、地域づくり委員会が中心となって以下のような取組を行っている。

### (「上州四万温泉郷之絵図」の作成、配布)

- ・ A4 サイズを縦につなぎ四万温泉の全エリアが一目で分かる地図。各旅館や食事店の場所は勿論、散策時の休憩場所となる“園地”、“自然遊歩道”ルート、“公共浴場や足湯”も書き込んである。ちょっと温泉街を歩いてみようかな…という時に助けとなる 1 枚。

### (園地、飲泉所、足湯等、まち歩きの拠点となる施設の整備)

- ・ 滞在中のお客様がまち歩きする時の拠点となる施設。「滝見園地」、「木の根宿園地」等、各園地は優れた景観を楽しめる場所に設けられ、あずまややトイレも整備されている。

### (自然遊歩道の整備)

- ・ 気軽に楽しめるコースとして「水晶山歩道（約 4 キロメートル・2 時間）」、「摩耶の滝歩道（約 2 キロメートル・40 分）」が整えられ、前述の“上州四万温泉郷之絵図”にも略図が明記されている。また、登山・ハイキングコースとして法師温泉までの 12 キロメートルコース、稲包山までの 10 キロメートルコースが整えられている。なお、稲包山コースは分水嶺を越えて新潟県湯沢町へ至る旧道でもあり、ここを再整備して自然景観の魅力と合わせて、旧道沿いの歴史や文化を紹介・PR していこうという計画がある。
- ・ 地域づくり委員会では、自然グループ・街グループに分かれて前述の取組を進めている。案内図の作成や施設の整備といった第一段階を経て、次のステップとしては「まち歩きガイドの育成」、水晶山歩道や稲包山自然歩道等「山歩きガイド」の育成といったソフト面の整備・充実を図ることが、地域のより一層の魅力作りに必要であると思われる。

### ●アドバイス（講義等）の概要

#### (1) トムソーヤクラブの取組概要

- ・ 1987 年の設立以来、旅を通じた小中学生の健全育成をテーマに活動してきたトムソーヤクラブの活動概要を紹介。サマーキャンプ、スキー体験旅行、会報誌の発行等

## (2) 地域の資源を活かした体験プログラムを実施

- ・ 山梨県北杜市白州町 →名水百選「尾白川」での川遊び、おいしい水、森と里山
- ・ 群馬県甘楽郡南牧村 →標高 1000 メートルの森、アウトドアクッキング、コンニャク
- ・ 沖縄県中頭郡読谷村 →サンゴの海、定置網漁、琉球の生活と文化
- ・ 地域にある資源・素材を活かし、トムソーヤクラブのソフトを加えて参加者に提供。

## (3) プログラムの魅力を大きくするトムソーヤクラブリーダー

- ・ 親元を離れ、小学生中学生だけで参加するサマーキャンプやスキー体験には、キャンプのお兄さんお姉さん（トムソーヤクラブリーダー）が同行。リーダーは毎月の研修会や勉強会を通じてスキルアップに努めている。同時に安全管理についても勉強を継続。
- ・ 自然体験プログラム実施の際には、安全面について入念な準備をすることが重要。

## ●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

- ・ 僅か 2 日間の滞在ではあったが、各拠点を直接に見て、体験し、地図や写真で案内していただいた。第一印象は、30代～40代の若い方々が十数名、にぎやかに同行し案内していただき、みんなとても仲良く、元気に地域づくりに取り組んでいるなということ。こんなに皆が熱心に、仲良く地域づくりに取り組んでいるのであれば未来は明るいと感じた。このことは視察時にもお伝えした。
- ・ 地域にエコツーリズムを定着させていくためのステップとして
  - 第一段階：地域の仲間が集い目標を設定し行動計画に沿って各人の役割に取り組む
  - 第二段階：案内図や施設整備や備品類の購入等、おもにハード面の整備を行う
  - 第三段階：ガイドの育成、コーディネーターとしての自らの勉強等、ソフト面の整備を行う
  - 第四段階：地域の魅力や地域の哲学を分かり易い言葉やイメージでお客様にPRする
  - 第五段階：半年に1度または1年に1度、各ステップについて評価と改善を行うこれを継続していくことが重要であると思います。
- ・ 四万温泉では第三段階の取組中と感じました。地域づくり委員会の自然グループ・街グループそれぞれで、ソフト面の充実に向けた取組を進めていただければと希望します。
- ・ 稲包山自然遊歩道については、個人的にもぜひ歩いてみたいなと感じています。関連の事例として長野・新潟の県境、斑尾山～天水山に至る関田山脈で取り組む「信越トレイル」を紹介させていただきました。近い将来、稲包山の遊歩道とともに歩ける時を楽しみにしています。

